



三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場

証券コード：4125

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

2025年8月8日



2026年3月期 第1四半期 決算概要



2026年3月期 第1四半期

売上高	営業利益	営業利益率
4,009百万円 【前年同期比】 +2.7% 	222百万円 【前年同期比】 +2.3% 	5.6% 【前年同期比】 0.0PT 

事業環境

- 貿易戦争やウクライナ・ロシア情勢長期化の影響等により、先行きの不透明感が拭えず需要を抑制
- インフレによる原材料価格・エネルギー価格・人件費等の高騰によるコストの負担増は継続
- 半導体業界の回復遅れ、EV業界の成長鈍化により高純度化学品の需要は伸びきらず

内部対応

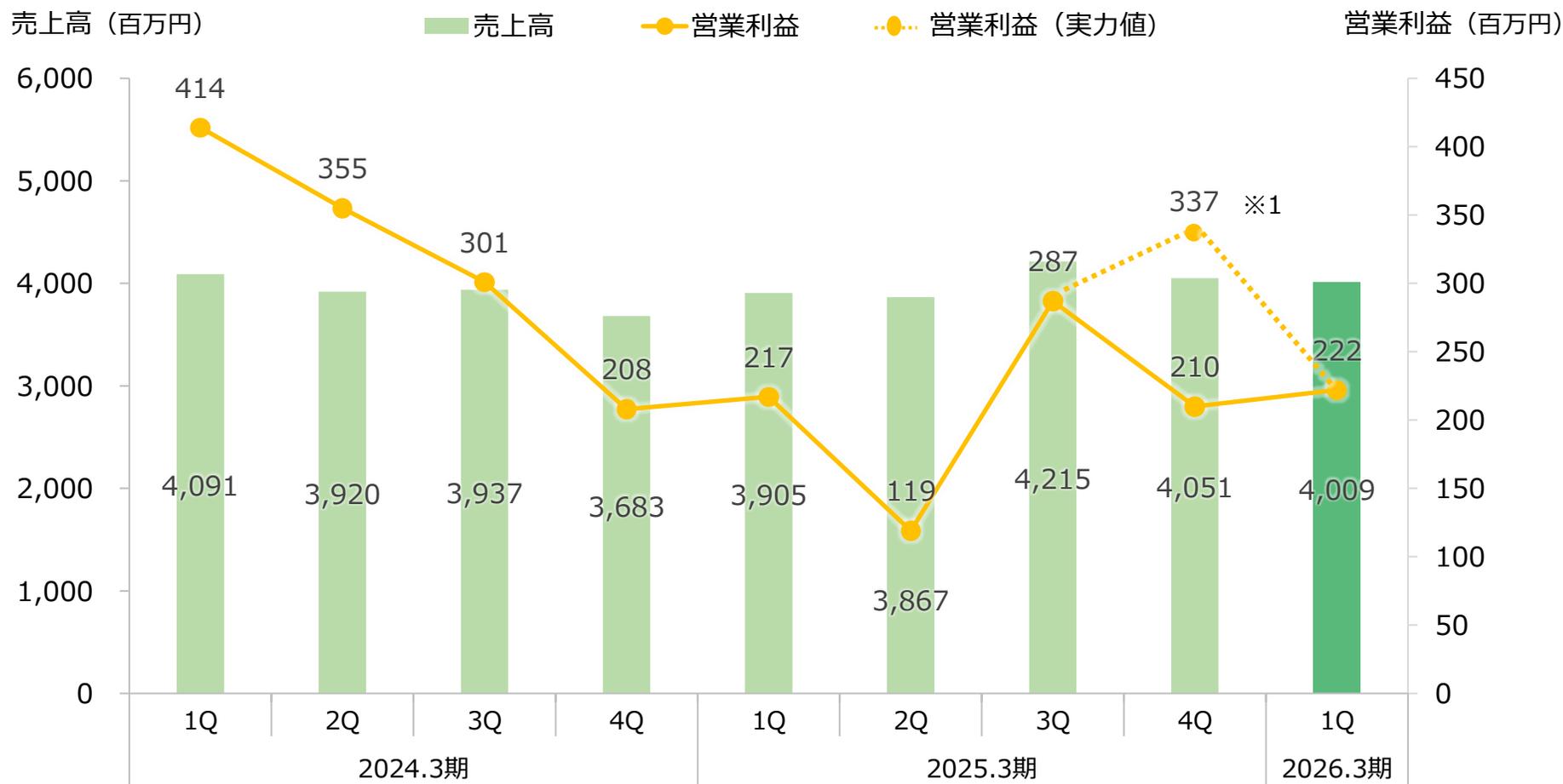
- 化学品事業における半導体・電池関連の一部顧客による需要の回復
- 廃棄物を再資源化し付加価値を高める研究開発は継続的に実施
- 将来の半導体・電池・電子部品業界からの需要拡大に対応するための投資を計画通り実施

⇒**化学品事業の復調およびリユース・リサイクル事業による安定した売上・利益の確保**
将来の需要増加に備えた投資及びコスト増加分を吸収し増収増益

- 高単価の難処理物引取等が増加したことにより**粗利率は0.7ポイント改善**
- 人員増による人件費増加等により**営業利益率は前年同水準**

(単位：百万円)	2025年3月期 1Q		2026年3月期 1Q		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	前期比
売上高	3,905	100.0%	4,009	100.0%	+104	+2.7%
売上総利益	1,117	28.6%	1,176	29.3%	+59	+5.3%
営業利益	217	5.6%	222	5.6%	+5	+2.3%
経常利益	264	6.8%	244	6.1%	△20	△7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	151	3.9%	138	3.4%	△11	△9.1%

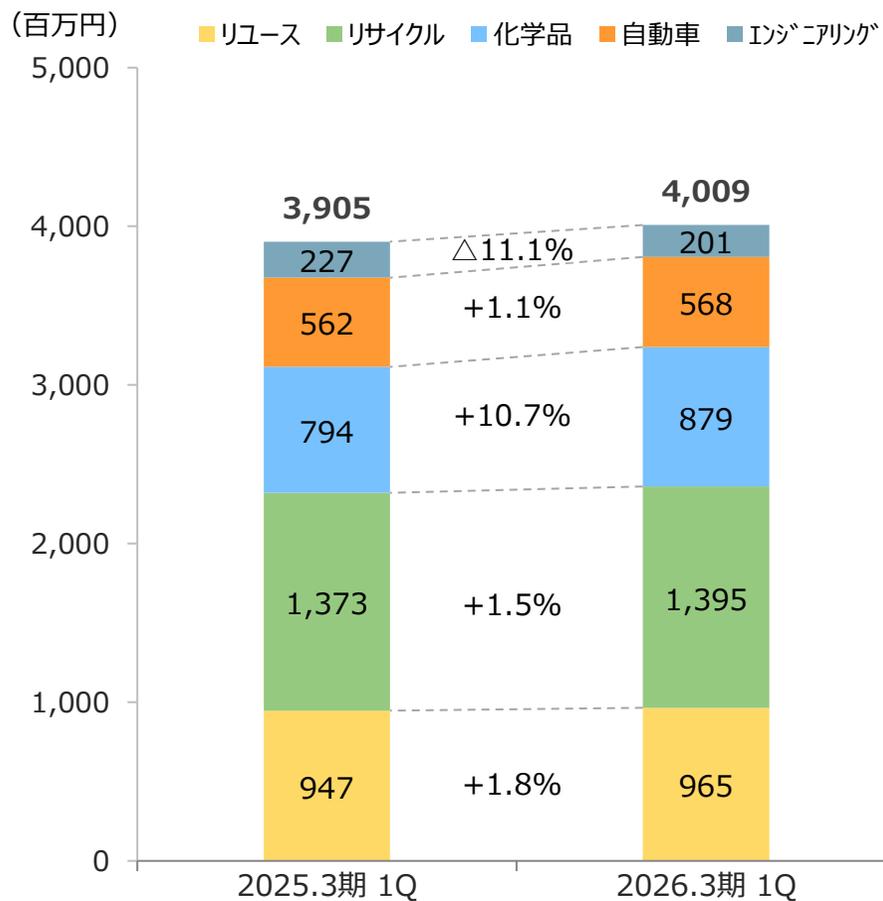
- 化学品事業では製品販売数量増加もリユース・リサイクル事業は例年並みとなり**売上は横這い**
- 設備稼働による減価償却費の増加、人員増による人件費増加等により**利益の増加幅は限定的**



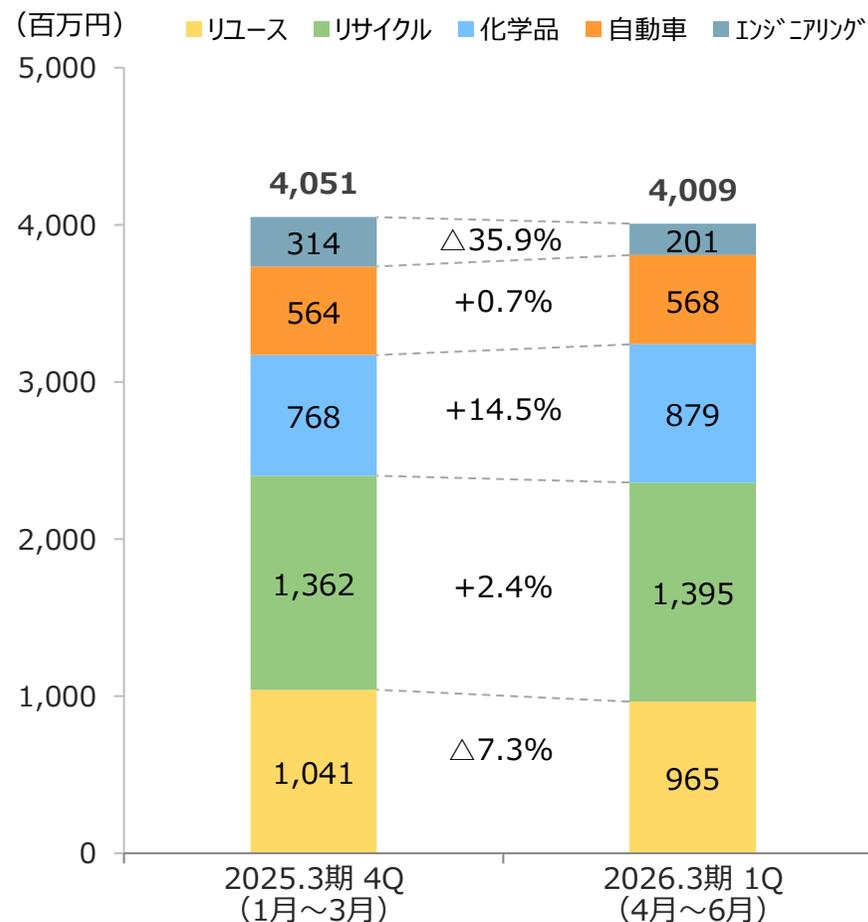
※1 2025年3月期4Qに会計基準変更による費用が127百万円発生。実力値としての営業利益は337百万円。

- スポット取引減により金属リサイクル売上減少、**溶剤・リン酸の再生品販売は堅調に推移**
- 化学品事業は半導体及び電池業界向け高純度製品の需要が**一部回復し販売数量増加**

前年同期比 (YoY)



前四半期比 (QoQ)

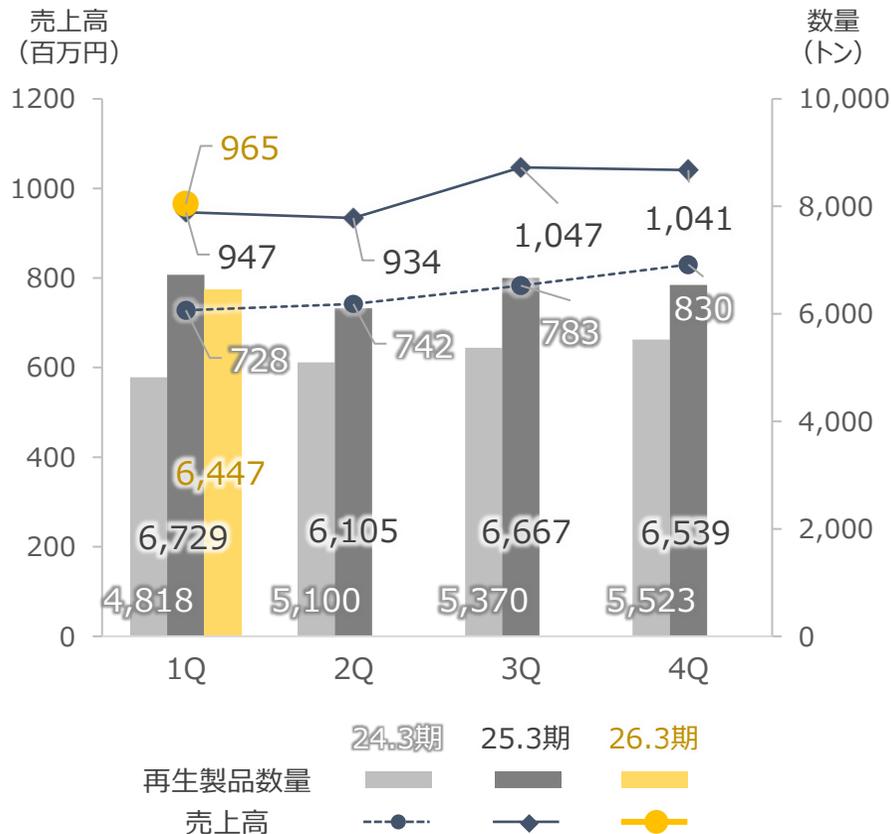




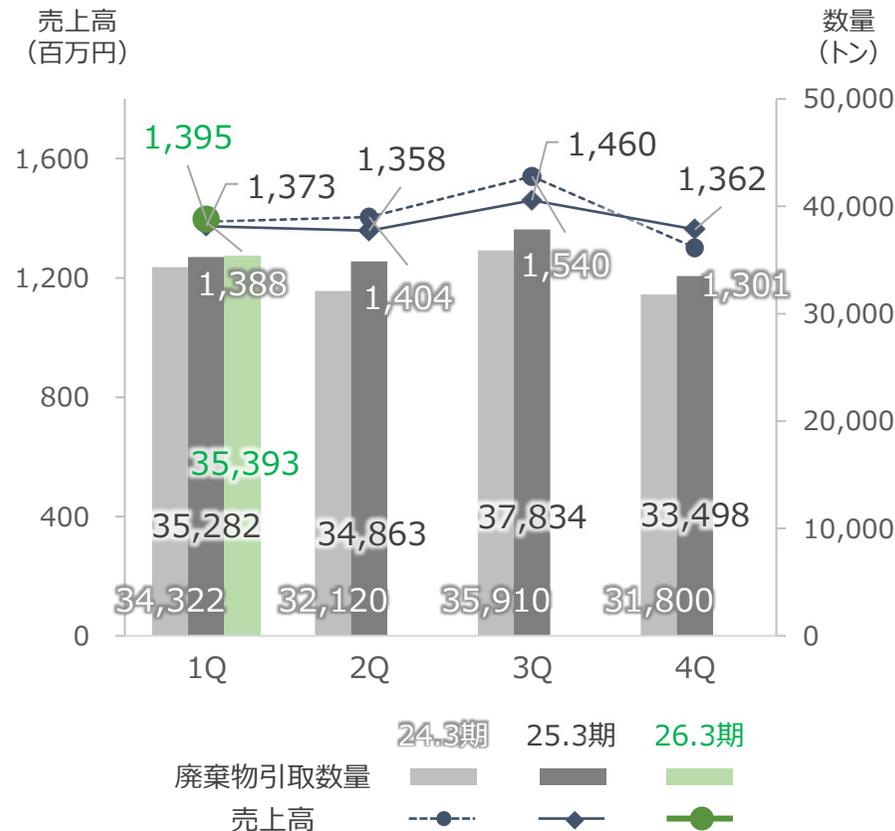
リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）



リユース事業



リサイクル事業



リユース事業売上と再生製品販売数量

- 溶剤・リン酸の再生製品は数量・単価ともに前年並
- 設備稼働率の向上により外注委託費は減少

リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 廃棄物由来燃料の引合は強く再生燃料の単価も上昇
- 引取単価の高い難処理物の収集量は増加

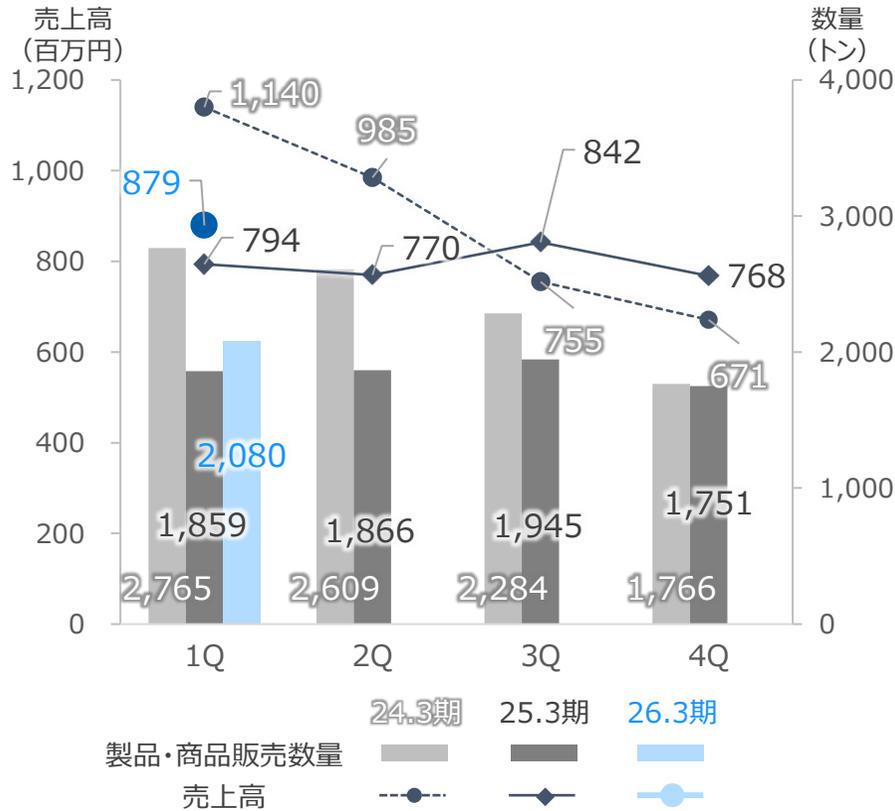
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品、自動車事業（四半期ごとの推移）



化学品事業



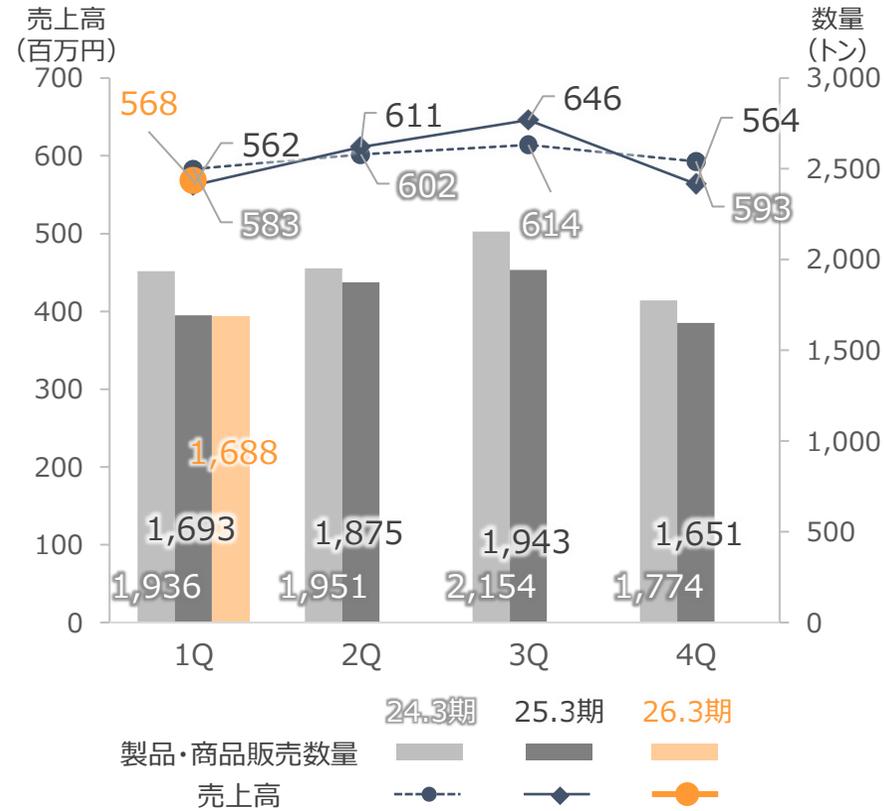
※ 製品：当社グループが品質保証する製造品 商品：転売品

■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 半導体業界向け**ファインケミカル製品**の数量増加
- EV関連工場稼働により**電池業界向けバインダー**の数量増加



自動車事業



■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

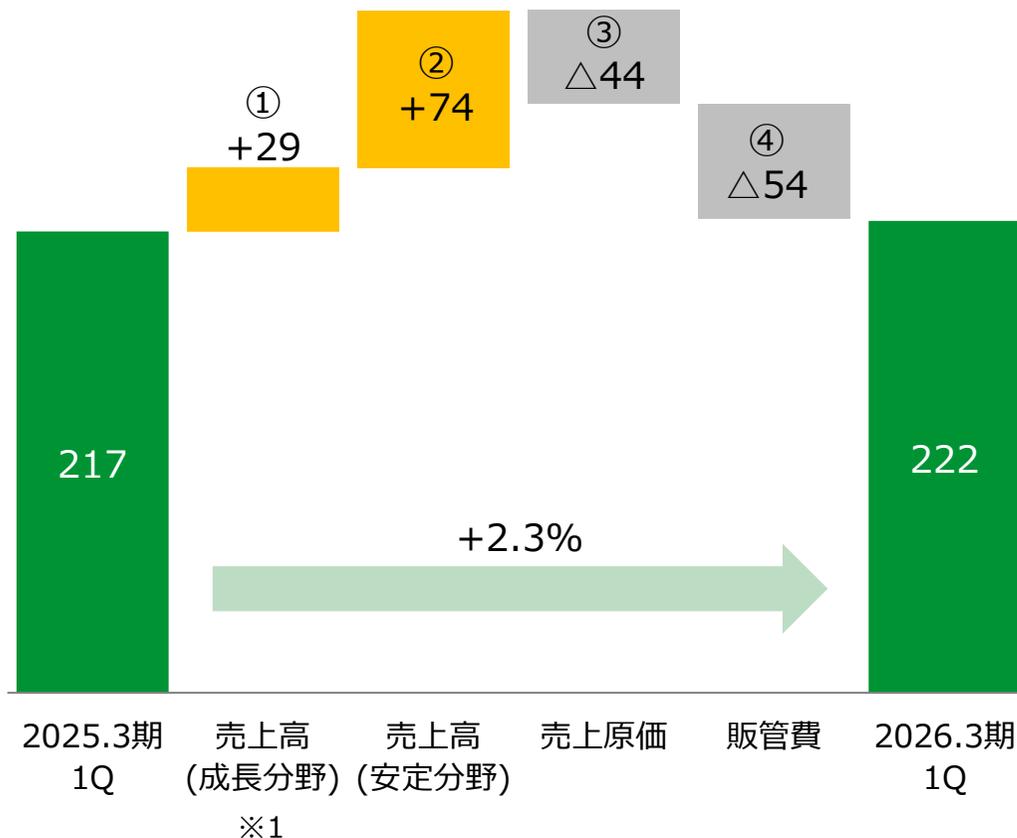
- 原料価格の上昇による**単価上昇**は一段落
- 高機能品の数量減少も**汎用製品**の販売増でリカバー

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前年同期比）

- 化学品事業で電池業界向けファインケミカル品や汎用化学製品の**販売増により増収**
- 運送コスト等の圧縮はしたものの、減価償却費や人件費の増加等により**利益は微増**

(百万円)



① 売上高（成長分野）

- 〈+〉【化】電池業界向け**バインダー**の販売数量増加
- 〈+〉【化】電池業界向け**受託溶剤再生**の数量増加

② 売上高（安定分野）

- 〈+〉【化】汎用化学製品の**数量・単価**が上昇
- 〈+〉【RC】子会社向け**廃棄物引取**の数量が増加

③ 売上原価

変動費

- 〈+〉外注運賃**コスト**の圧縮
- 〈-〉原材料、容器代等の増加

固定費

- 〈-〉投資設備の稼働開始による**減価償却費**増加

④ 販管費

- 〈-〉人員増による**人件費**増加
- 〈-〉九州事業用地の賃借がはじまり**賃借料**増加

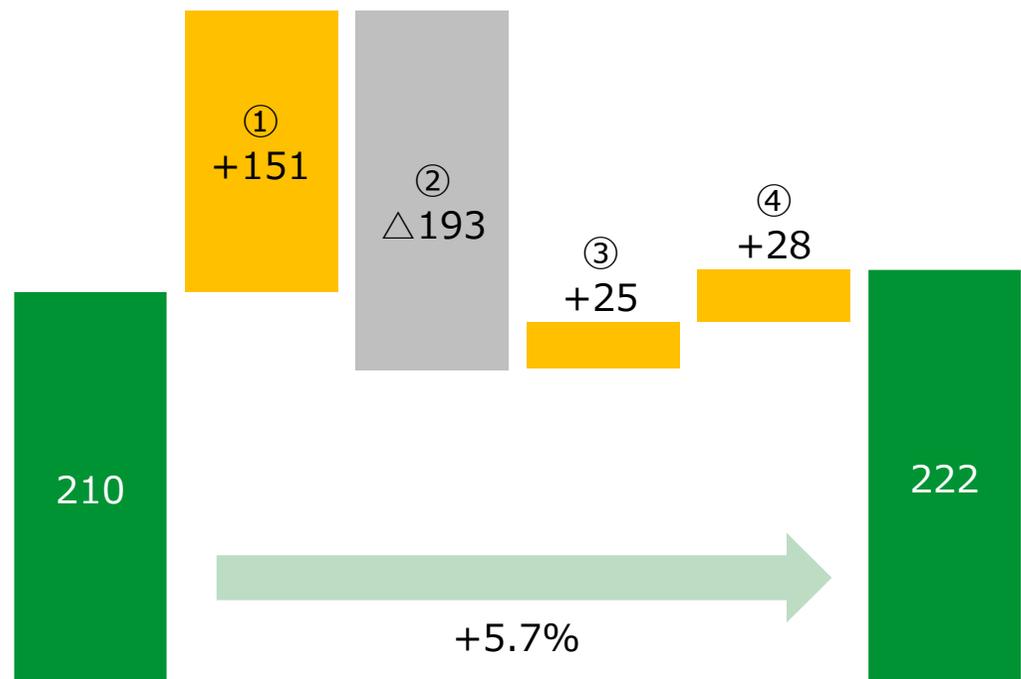
※1 当社が注力している、半導体・電池・電子部品業界向け製品および解体・清掃等の作業代の売上高

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
【RC】リサイクル、【化】化学品

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 化学品事業で**半導体・電池業界向けファインケミカル製品の販売数量増加**
- 運賃、荷役保管料等の**経費削減によるコスト削減を実施**

(百万円)



2025.3期 4Q (1月~3月) ※1
 売上高 (成長分野)
 売上高 (安定分野)
 売上原価
 販管費
 2026.3期 1Q (4月~6月)

① 売上高 (成長分野)

- 〈+〉【化】 **ファインケミカル製品の販売数量増加**
- 〈+〉【化】 電池業界向け **バインダーの販売数量増加**
- 〈-〉【I】 大型解体案件は未獲得

② 売上高 (安定分野)

- 〈-〉【RU】 前四半期は金属回収の大型案件あり
- 〈-〉【I】 PCB処理案件の減少

③ 売上原価

変動費

- 〈+〉 運送コストの圧縮

固定費

- 〈+〉 業務委託費、消耗品費等の **経費圧縮**

④ 販管費

- 〈+〉 保険料、車両費等の **経費圧縮**

※1 当社が注力している、半導体・電池・電子部品業界向け製品および解体・清掃等の作業代の売上高

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
 【RU】リユース、【化】自動車、【I】エンジニアリング

貸借対照表

(単位：百万円)	2025年3月期末	2026年3月期1Q末	前期比 増減額	コメント
流動資産	6,077	5,984	△92	受取手形及び売掛金が減少
固定資産	14,559	14,530	△28	減価償却により有形固定資産が減少
資産合計	20,636	20,515	△121	
流動負債	4,174	4,337	+163	夏季賞与分保険料の未払費用が増加
固定負債	3,949	3,691	△257	長期借入金の返済が進行
負債合計	8,123	8,029	△93	
純資産合計	12,513	12,485	△27	配当金支払による剰余金の減少
負債・純資産合計	20,636	20,515	△121	



2026年3月期 業績予想



- 新規取引等を軌道に乗せることにより、**年度後半に向け売上・利益を拡大**する計画
- 廃棄物の再資源化で安定的に**収益を確保**しつつ、**成長業界向けの活動を継続**していく

(単位：百万円)	2025年3月期		2026年3月期		増減		2026年3月期 1Q	
	実績	売上高比率	予想	売上高比率	増減額	増減比	実績	進捗率
売上高	16,040	100.0%	17,000	100.0%	+959	+6.0%	4,009	23.6%
売上総利益	4,504	28.1%						
営業利益	836	5.2%	1,000	5.9%	+163	+19.6%	222	22.3%
経常利益	897	5.6%	1,060	6.2%	+162	+18.1%	244	23.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	591	3.7%	740	4.4%	+148	+25.1%	138	18.7%

※2025年3月期には、会計基準の変更により発生した退職給付費用（127百万円）が営業費用に含まれております。

進捗評価

- 子会社サンワマテリアルソリューションズ北九州工場（仮称）
九州エリアを中心に成長が見込まれる半導体関連企業等の
産業廃棄物をマテリアルリサイクルする工場を北九州市に建設
投資額は約80億円（うち最大20億円の補助金）
2027年4月の稼働を目指し建設中



▲ 2025年7月の地鎮祭

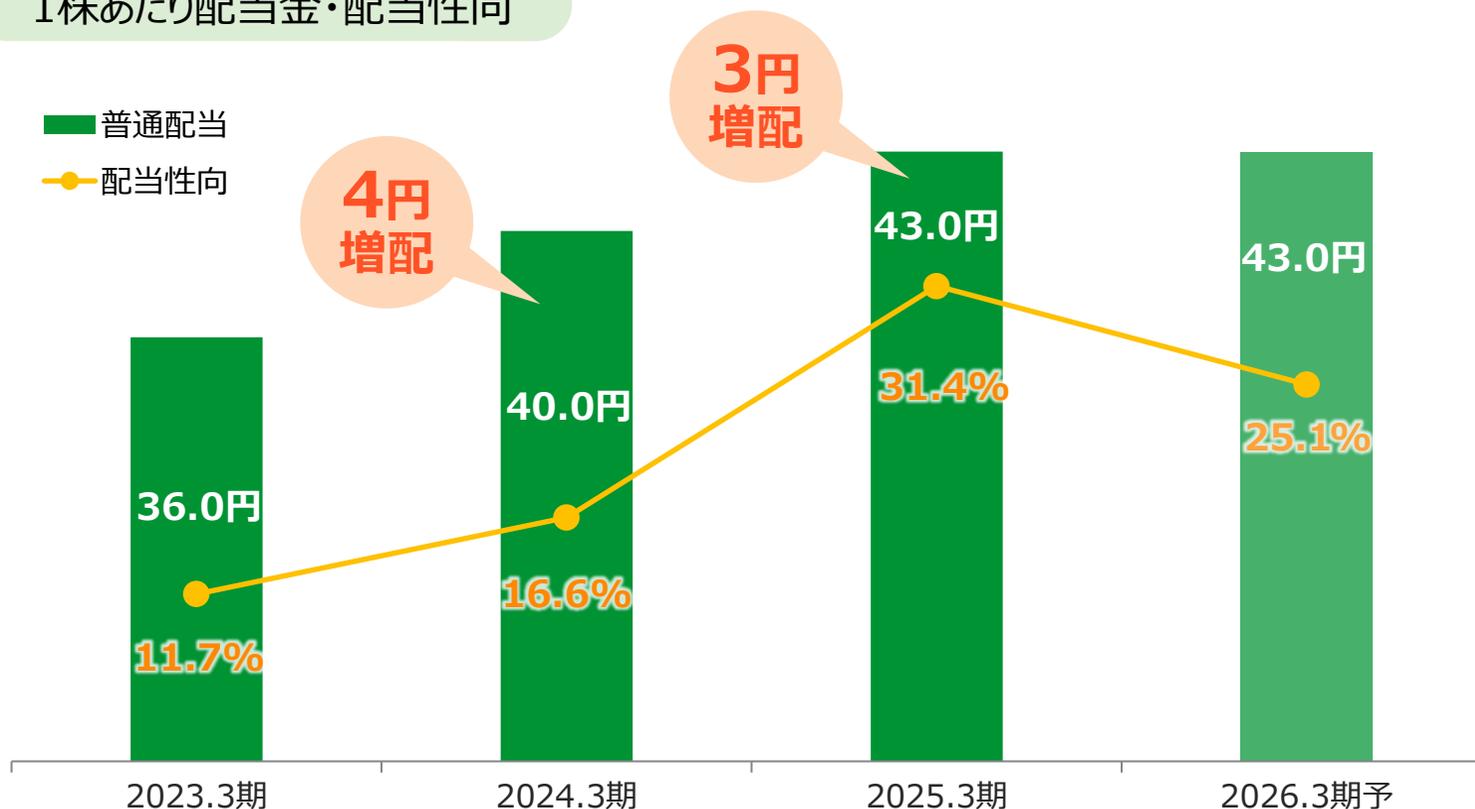
- 金属マテリアルリサイクル会社の子会社化
為替・地政学等の要因により調達リスクが懸念される、希少金属マテリアルリサイクルの
取扱数量増加を目的とし、大阪市の**A&H JAPAN株式会社と株式譲渡契約を締結**
投資額は7億円（株式譲渡金額のみ）
2025年10月1日の結合（譲渡実行）にむけ調整中

- 電池業界向けバインダー製造設備
次世代自動車の生産増に合わせ、車載電池向けバインダー製造設備に投資し試作中
EV関連工場の稼働が開始し、当社生産設備も2025年4月より稼働
2028年度以降のフル生産に向け増産をかけていく予定ではあるが計画にズレ込みあり
投資額は約1.5億円

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、非減配を基本方針とし、安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://www.sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。